

は船舶を引き上げなきゃいけないので、そういった車庫と引き上げの装置とか、そういったものもかかると。なおかつ、冬場はそれらを冬場でももつようにつくるのか、あるいは毎年毎年仮のそういう施設に設置するのかとか、いろんなことを考えられますので、これらについてことしいろいろ検討して、できますれば来年以降あたりに具体的に進めていければなど。やはり相当需要といいますか、乗りたいという方の反響はございますので、これらについてはなかなか民間でも採算合うものをつくるのは難しいとは思いますが、私どももNPOリバーツリズムネットワークなどとも検討しながら、ぜひこれら、どういった形で進めていったらいいか、ことしはいろいろ実証実験をしてみたいと考えているところです。

○五十嵐智洋委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 水陸両用車、船、いろんな比較して、一番効率がよくてお金がかからずに済むような形で検討されるということで、これから見守って行って、また質問させていただければと思います。

長井ダム観光は長井の宝の一つでありますので、ぜひこれを地域資源として有効活用できるように、これからもみんなで検討していきたいなと思いますので、よろしく願います。

これで質問を終わります。

内谷邦彦委員の総括質疑

○五十嵐智洋委員長 次に、順位2番、議席番号4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 長井創生の内谷邦彦です。通告書に従い質問いたしますので、回答、よろしく願います。

10款教育費2項小学校費、長井小学校仮昇降

口等賃貸料、平成29年債務負担行為3,035万6,100円、長井小学校管理棟建設工事1億4,381万5,000円について伺います。

まず、長井小学校仮昇降口賃貸料に関し、昨年の12月定例会で予算総括質疑を行い、その中で、平成30年7月から平成31年4月までの13カ月の賃貸料8,490万円、月653万円に対し、仮施設の賃貸料としては高過ぎるのではと検討依頼を行い、今回4,384万9,000円、月337万3,000円と50%近い大きなコストダウンを行っていただきまして、ありがとうございます。しかし、私には、仮設であるとのことからまだ不十分ではないかと考えて再度質問しますので、よろしく願います。

先回の質疑で、昇降口の設置費用が105万3,000円、撤去費用が29万3,000円、渡り廊下部分設置費用が108万5,000円、撤去費用が55万6,000円、電気設備工事費99万3,000円、一般管理費134万6,000円、消費税48万4,000円、合計653万円となり、当初の8,490万円から経費を差し引いて、総額7,837万、月平均602万8,000円となりますが、今回の費用明細について教えてください。教育参事、願います。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

予算額による概算になりますが、今回の昇降口の設置に係る費用につきましては、1カ月当たり43万5,000円、同撤去費用が4万3,000円、渡り廊下設置費用が114万6,000円、同撤去費用が45万4,000円、電気設備工事などが18万7,000円、諸経費が85万8,000円、消費税が25万円となります。合わせますと、1カ月当たり337万3,000円となるものでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 今回、体育館の下に仮昇降口を設置することにしておりますが、渡り廊下の長さが当初85メートルということでしたけれども、現在の長さが37メートル前後となってい

ると見てよろしいのでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

当初の第3校舎中央部の出入りに接続する案では、北側に面する今委員おっしゃったように仮渡り廊下の延長は85メートルでありまして、全体で134.05メートルございました。ただ、費用を抑えるべく検討を行ったところ、新たに仮設の昇降口を設置しないで体育館1階ピロティに昇降口機能を設けることとしたことから、渡り廊下の延長につきましては北側で53メートル、南北方向を含めて全体で91メートルとなっております。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 やはり渡り廊下が長いというふうに私感じております。冬期間のことを考えると、ことしの冬のような雪の状況では、やっぱり除雪経費としてまた多大な費用がかかってしまうのではないかと。非常の場合を考えて除雪を行うというふうに前回答をいただいております。この費用について考えてるのかと。冬は1階だけと考えるかもしれませんが、1階だとしても、必要ない経費として考えた場合に再度検討すべき事項と思いますが、その対応は可能でしょうか。教育参事、お願いいたします。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 仮設の渡り廊下につきましては、片側約1%の勾配をつけまして、建築基準法の基準に基づき、雪おろしを条件に100センチの垂直積雪量に耐えられるよう設計されてございます。雪おろしにつきましては、その年々での降雪に影響されることから、リース料には含まないで状況に応じまして別途行うというふうなことにしてございます。

なお、平成29年度につきましては、長井小学校での雪おろしはございませんでした。

また、緊急時の避難経路となります仮設渡り廊下グラウンド側の通路除雪につきましては、

現在も降雪状況に応じ随時行っておりまして、新たにふえる作業としましては仮設渡り廊下に設置されております非常口周辺の除雪作業と考えてございます。

なお、除排雪経費につきましては、平成30年度当初予算におきまして、小学校全体で117万7,000円を計上してるところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 渡り廊下の非常口を除雪する場合に、そこだけじゃだめで、そこから逃げる道つけなきゃなんないですよ、あの形状だとすると。渡り廊下の非常口がありました、その非常口があくようにしました、ただ、雪がいっぱいでどこにも行けないじゃあどうしようもないですよ。その非常口出たら、逃げ道をつくんなきゃなんないですよ。そういった経費というのは見られるんですか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えします。

委員おっしゃるように、ただ単に非常口の周りだけ除排雪するというようなことでなくて、当然避難される経路も含めて除排雪するというふうなことでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 可能性の話なんですけども、管理棟の位置を北側に3メートル移動したら、管理棟の南側に渡り廊下はつくるのが可能だと、このようなことは考えたのでしょうか。要するに、管理棟から校舎に行く廊下と並行に生徒用の廊下をつくるのができれば、より経費が抑えられると思います。管理棟を動かすのに経費がかかるというかもしれませんが、管理棟を3メートル移動する費用と渡り廊下関連費用が現行費用と比較してどうなるか。管理棟がプレハブ移動で難しいということもあるかもしれませんが、今はどのようなことでもできる可能性が高くなっており、見積もりをとることだけでもできると思うんですけど

も、その辺はいかがでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

現在の仮設の管理棟を移動させるためには、その工事の期間中、仮設の管理棟内にあります校長室、職員室、事務室等の機能を別の場所に移す必要があるということが1つあります。また、その移設場所の確保であったり、やはり仮設プレハブでありますので引き移転というのは無理なものですから、一度プレハブを解体して再度組み立てるといふような費用も当然発生するわけでございますし、あと水道管の布設等々の費用も発生するというところで断念したといふようなことでございます。

教育委員の方からも移設できないのかといふような質問を1度いただいておったところではありますが、そのようなことをご答えしながらご説明申し上げたところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 じゃあ、次に管理棟建設工事に関して伺います。

長井小学校管理棟建設工事实施設計業務委託料として、昨年4月の当初予算で2,974万3,200円組まれておまして、先日の文教常任委員会協議会での委員の質疑の回答で、実施設計が終わっているのだからこれからの変更は難しいという話がありました。今回提示された管理棟の略図に関し、事前に議会への説明はあったのでしょうか。学校の要望を最大限に取り入れ、先生が使いやすい、子供たちのことを考えたという話でしたけども、教育関係者以外の意見について聞いているのかどうか、もし聞いたとしたらどのタイミングで聞いたのかを教えてください。教育参事、お願いいたします。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

管理棟の建設につきましては、平成26年度に実は基本設計を策定してございます。ただ、面

積が1,620平米もあったといふようなことから、今、全面的に見直しをして、費用を圧縮して進めることにしてございました。そうしたことから、図面をお示ししてご意見をお伺いすることができなかったことにつきましては率直におわびを申し上げますとともに、大幅に変わってしまったといふような特別な事例としてご理解をお願いするところでございます。

また、設計等につきましては利用者が児童と教職員であることから、実態を把握し、実際に使用する学校の意見を聴取し、精査の上、原案としていただいております。その後、市長、副市長、財政課など、市役所内部に説明を行いながら調整の上、今回の成案とさせていただいたところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その平成26年度に基本設計して1,620平米で全面的に見直しをしたという部分になってくると、どこかのタイミングで議会側に示していただかないとわからないですよ。平成26年、基本設計って、1回議会はリセットしてますので、27年に、全然その、ましてや委員会のスタッフもメンバーも全部かわってる状況の中で、どういったことがあってなったのかっていうのがやっぱり全然わからないで、いきなりこの略図が出てきたような、私にとつた雰囲気はそんな雰囲気だったものですから、その辺に関してはやはり何らかの対応をとれなかったのか、とらなかったのか、そちらはどのように考えていらっしゃいますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 先ほど申し上げましたように、本来であれば基本設計の段階で、きちんとある程度固まった図面を議会の皆様方にご提示申し上げて、ご意見を伺うといふような場を設置すればよかったです。そんなことで、改めて基本設計をやり直すといふようなことも当初、ある程度費用もかかっているようなこと

るもありますので、このたびの実施設計、業務委託というようなところで進めてきたというようなことでございます。

ある程度その基本とされるような図面等々があればお示しをしながらご意見を伺うということは可能だったと思うんですが、先ほど申し上げましたように、全面的な見直しというようなこともありましたので、大変申しわけなかったというふうには思いますが、今後、基本設計の段階でお示しできるというようなことはありますので、どうかご理解のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 また再度、同じような形になるんですけど、そうなってくると、議会としての役目は一体何なんでしょうかとこの部分になると思うんですよ。やっぱり実施設計終わりました、略図出ました、これ以上変えられせんって、じゃあ我々は何をしたらいいんですかという部分になると思うんですが、その辺をどのように考えられていらっしゃいますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 今回の長井小学校管理棟の建設工事につきましては、やはり職員室や事務室、校長室、児童の昇降口、会議室等を建設するためのものというふうなものでありまして、不特定多数の方が利用するような、いわゆる公共性の高い施設ではないというようなことなものですから、やはりパブリックコメントや市民の方々の意見を集約するような性質のものではないというふうにならざるにちょっと判断、考えているところでありまして、利用者である学校側と、委託業者とともに複数回にわたり打ち合わせを行い、さらに教育委員会でご意見をいただきながら協議して、原案をまとめておいたものでございます。

設計におきましては、職員室から下校の様子が見守れるよう、建物中央部に吹き抜けを設置

し、開放的で明るい空間を創出すると。あと、もう一つは荒天時でも下校指導ができるよう、集会ホールを設置する。あと、もう一つとしまして、職員会議など大人数でも開かれるような会議室を設置するというふうな、などのコンセプトに基づきまして設計を実施しているところでございます。特に過大な面積等を算入しているというふうなことではありませぬし、適正規模の面積というようなことで今のところは考えているところでございますし、利用する児童や教職員が使いやすいレイアウトや、やはり児童が出入りする昇降口の大きさやトイレの大きさなど、適正なものをというふうに考えているところでございますので、また2階のトイレにつきましては第2校舎のトイレを使っていたかというようなことで、設置しないというふうなことにしまして、経費削減を図っているというようなところでご理解をいただきたいというふうに思っているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 じゃあ、建物の中をちょっと教えていただきたいんですけども、生徒数の減少についてどのような考えての設計になつてののかと。今年度の生徒数、出生数を見れば大体6年先までは確実にわかることですから、そこから統計的に見れば、10年先、15年先を見通せると思ひますけども、それに関してはいかがでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 管理棟設計に当たりましては今後の、委員おっしゃったように、児童数の推移というようなところも考慮しながら、ただ、今いる児童数が使用することをやはり前提に、今設計を行っているところでございます。

また、将来、第2校舎、第3校舎の改築が必要になった場合の改修等も見込んで、いわゆる廊下の取り付けができるというようなところで見込んで設計しているところでございま

すし、また以前、今の昇降口は児童数が1,000人もいた時代の昇降口の下足棚というふうになっておりますので、そうしたところも現在の児童数に合わせた下足棚の数を設置するというようなことで進めているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その管理棟全体の大きさというのはどこから持ってきてるもので、誰がどのようにして決めてるのかと。当然参考にしているモデルがあると思うんですけども、その辺を教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 管理棟の規模につきましては、今の現の昇降口、仮設管理棟及び第1校舎自体のやはり利用状況等を学校側から聞き取りを行い、現地調査を行いながら、必要とされる部屋、あと必要な面積等を見込みまして、最終的には実施設計業務の発注者である私たち市のほうの判断で盛り込んだものでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 じゃあ、その職員室に関して伺いますけども、広さが大体182.53平米あります。この広さの基準はどこから持ってきていらっしゃるんでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 文部科学省では、実は職員室や校長室など使用目的ごとの詳細な面積は定められてございません。一方で、文部科学省が定めた小学校施設整備指針によりますと、職員室につきましては机、椅子等の家具や機器を適切に配置し、書棚、掲示板、個人用ロッカー等を十分に設置することができるようにするとともに、各種の文書、教材、教具等の保管のために必要な面積、形状とすることが重要であるというふうにされてございます。そのため第1校舎時代の職員室163.6平米、あと仮設管理棟の職員室167.09平米を基本といたしまして、実際の職員用机等の配置を想定し、決定していると

ころでございます。

面積がふえておりますのは、新管理棟では凶面等も見ていくとおわかりだと思いますが、構造上、職員室中央付近に柱が必要なため、効率的な机配置が難しかったというようなことが一つはございますし、ALTの1名の配置や教育支援員4名の配置など、さらに今後、ALT及び教育支援員が増員になる可能性があることから、現状の面積ではやはり手狭というふうに判断して、182.53平米というふうなところにしたところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 現在の職員室は大体40人で、その他関係者を含めると50人として考えた場合に、私が調べた内容では、その教師1人当たりの面積が3平米というふうに記されてありました。50名だとすると、大体150平米となつて、現行より32.53平米広がっているんですけども、やっぱりその理由としては書棚とかなんとかっていう部分があるんでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 今、委員がおっしゃられたような部分で、設計、整備の施設整備指針に基づきまして、やはり机や椅子の配置のみならず、書棚、掲示板、ロッカー等、あと教材、教具等の保管のために必要な面積、形状とすることが重要だということでもありますので、やはり隣で先生方が肩がぶつかってしまうというふうなわけにはいきませんので、そうしたところも十分考慮しながらこの面積にしたというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その教材や資料を置くスペースを考えているというふうなお話でしたけども、それであれば別室で管理すべきではないかと。壁に書庫などを並べることは地震などの災害時、倒れてくる危険性があり、職員室内に背が高いものなどは置くべきではないと。やっ

ぱり圧迫感がかなり出てきます。書庫などは倒れないように対応するという意見があるかもしれませんが、中のものが飛び出してきたら同じようになってしまいますと。整理整頓といった観点からも、教材や資料スペースは別室に設けるべきだというふうに考えますけども、いかがでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

教材や資料のうち、やはり別室に保管できるもの、または保管すべきものにつきまして、やはり職員室内に書庫がございまして、その書庫や第2校舎や第3校舎の教材室等に保管すべきものというふうには考えております。

一方、日常的に使用する資料等々につきましては、やはり身近な職員室内に保管するのが効率的というふうに考えます。

なお、災害等に備えて、キャビネット内など整理整頓を指導していきたいというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、その職員室の設置条件としてセキュリティーに配し、校門の雰囲気掌握できること、昇降口が見えることが必要でないかというふうに思ってますけども、特に第1校舎の免震工事が完了して正式にオープンした後、観光客が入ってくる可能性が高くなります。事務室が1階にあるから問題ないという意見でしょうけども、小学校の責任者としての校長の責任は一体どこに出てくるんでしょうか。現状の校長室からは校門見えないですよね。その辺はどのように考えていらっしゃいますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 1階の部分に、委員もおっしゃったように、事務室を設置しておりますので、そこで来賓の方、来客の方の把握をするというふうなことで、そこで十分対応できるのかなというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 私が聞いているのは、来賓とかじゃなくて、観光客が入ってくる可能性があるんじゃないですかと。今、第1校舎免震工事やってもらって、要するに観光客があそこに入ってきますよね、今度ね。そうした場合に校門のほうから、ある程度経路はこれから考えられるんでしょうけども、観光客の通る道筋としては。ただ、現状を考えた場合に、生徒が校門から入ってくる通り道と、要するに観光客が入る通り道が同じだとして、もし可能性として、観光客がそのまま中に入っちゃった場合に、校長室って見えないですよね、まるっきり。

事務室があるからいいとおっしゃるかもしれませんが、事務員の方は基本的に事務が仕事ですから、下向いてますよね。誰か来て、ピンポンと鳴らしゃ上向くかもしれないですけど、校長としての監督責任というのは、じゃあどこにあるんですかと。校長室なり職員室からは校門が見える位置じゃないとまずいんじゃないですかという言い方なんですよ。その辺はどう考えられてますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 レイアウト上、1階に校長室の設置というのはなかなか難しかった。というのは、昇降口もありますし、給食の搬入口等々もというふうなところもあったわけですので、さまざまそういうふうな懸念はあるかもしれませんが、一つはその第1校舎が今後、学びと交流の場というふうなところで推し進めるに当たって、そういうふうなところが安易に観光客の方がやはり入らないような仕掛けってというふうなところも一つ必要になってくるのかなと思いますし、当然事務室のほうからどういうふうな方が来られるのか、来てるのか、そこで見ることはできますので、そうしたところで把握するというふうなことであろうかなというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 セキュリティー上、非常にあやふやですよ。やっぱり事務の方が見るのかなとか、かなとかベースじゃないんですよ。入ってこられたらもうアウトですから、その対策をしなければなんないという部分になると、逆に言うと監視カメラをつけて校長室で見るとか、逆にそっちのほうを言っていたかかないと、我々としては納得できない状況ですよ。

先ほど下に昇降口があるとかってこれは2階ですよ、校長室。要するに、ぐるっと回しちゃ全部解決するんですよ、これ。要するに反転すればいいんじゃないですか、これっていう話なんですよ、単純に言うと、上だけ。教師であったり、要するに校長であったり、教頭であったり、誰かがやっぱり学校責任者が常に校門だったら校門、学校を管理してるという責任感が、要するにこれだと全然見えないんですよ。昇降口からまるっきり見えない。まして全然遠いんですよ。常に見ている状況でもないし、途中、会議室もあるし、中に入っていけないと見えないしという状況ですから、これが普通に通路で窓があれば、窓まで行けば見えますからとかって言いますが、全部部屋になってますから見えないですよ。これで本当にそのセキュリティー的に大丈夫なんですよって言い切れるというのが非常に不安なんですけど、その辺いかがですか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 ほかの学校の部分におきましても、校長室と職員室等につきましては昇降口のところに設置されては、ほとんどの場合、ございませんので、そうしたところを防ぐために、今、委員おっしゃったように、監視カメラを設置して、事務室のほうで常にモニターを見ながら把握しているというようなところでございますので、そうした対策も整えながら実施してまいりたいというふうに考えておりますし、

校長室を2階に設置した部分につきましては、ただ、職員室を2階に設置せざるを得なかったわけですので、そうしたところ、危機管理上、職員の方と校長というようなところで連帯を持って対応するというふうな必要性もあるというようなことでありますので、そうした観点から2階のほうに設置させていただいたというようなことでございますし、今後セキュリティーにつきましては、ただいま申し上げましたように、モニター等をつけて万全を配していきたいというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あとその校長室が34.2平米あるんですよ。約10坪あります。ここまでの広さが必要な理由は何なんでしょうかと。個人的に調べると、校長室の面積についてはおおむね25平米から30平米で、見ると会議用のテーブルがあって、応接セットまであります。何でこれだけの広さが必要なんですか、教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

さきに申し上げました小学校の施設の整備指針におきまして、校長室は必要に応じ、他の管理関係室と区画し、応接や各種資料等を保管するための家具等を設置することができる面積、形状とすることが重要であるというふうにされてございます。実際に来客の応対や学校運営に係る打ち合わせ等でさまざまな目的で利用されているところでありまして、そのため今回の設計では利用実態に合わせた室内配置ができるよう設計しているところでございます。

なお、校長室の面積につきましては、第1校舎のときは44.6平米、仮設管理棟のときは32平米、また面積の大きいところにつきましては、致芳小学校で37.3平米、豊田小が36.3平米、南中が36.6平米、北中が36.1平米となっております。やはり校長室と会議室が一体となっております。

ます伊佐沢小学校、ここが57.05平米ありますが、ここを除いた各校の校長室の平均が34.3平米というふうになっているところがございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 何でこれだけの広い、一般企業で、よっぽどの大企業の社長室でもない、こんな広い部屋ないですよ。普通、中小企業の社長の部屋なんてこんなに広くないです、20畳ですからね。余りにもちょっと考え方が、やっぱり私、企業出身から言わせると、考えられない。何でこんな無駄なデッドスペースをつくってるのか。

あと、校長室にいろいろ置くんでしょけど、各種大会のトロフィーとか賞状を置くスペースとか、あとそういったことを置くスペースっていうのは考えていらっしゃるんですか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 基本的に応接というか、会議も一緒にできるようなスペースを応接セットも設置しておりますので、来客対応であったり打ち合わせというようなことで、よく私たちも使わせていただいておりますので、決して無駄に広いスペースではないのかなというふうに考えているところがございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 職員室であれ、校長室であれ、部屋を広くすればそれだけ照明が多くなります。当然冷暖房効率も悪くなります。日常の経費が多くかかるという状態になります。特に職員室になると、1人でもいれば冷暖房は当然使いますわね。そうした場合に、かなり費用負担が多くなるというふうに考えてますけども、その日常経費について、費用負担を最低限に抑える工夫というのはこの管理棟に関してはされていらっしゃるんでしょうか。その辺を教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 具体的に内谷委員のお話し

されている部分については冷暖房の費用等々でなかろうかなと思いますが、冷房につきましては設定温度を設けながら、そこは遵守していただくとか、当然暖房についても設定していただいて、過剰なものにならないようにこちらのほうでも指導してまいりたいというふうに考えているところがございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 費用削減ということにはならないですよ。やっぱり照明であれば部分的につくように、全部スイッチをつけますとか、要するに暖房であれば途中で個別に暖房できるようなことも考えますとか、冷房であっても、もし必要なければ要するに切って使いませんか、要するにそういうのが全然なくて、ただ単に設定温度を変えてって、それはやっぱり経費節減という考え方からいうと非常に甘い考え方だなというふうに考えてますので、その辺は細かくしていかないと経費は絶対に節減できませんので、その部分に関しては本当気をつけて見ていただかないとまずいと思いますので、よろしくをお願いします。

あと、その図、1階の集会ホールってあるんですけど、何の集会に使う目的なのか、また吹き抜けが本当に必要なのか。何のための吹き抜けなのかを教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 1階の集会ホールにつきましては、雨天時にクラス単位で下校指導や軽運動などの実施や、児童の待ち合わせなどさまざまな目的で活用できるよう、下足棚前の前室部分を最大限に確保したものでございます。これにつきましては、平成26年度に実施しました豊田小学校の校舎の大規模改修事業におきまして、中敷きのところ、昇降口と廊下を仕切っていた扉がありましたが、それを撤去して広くしたというようなことで、大変好評だったというようなことから、28年度の平野小学校の校舎でも同

様なことを行って、そこを広く集会所にも使えるというようなことでやっているところがございます。

そうしたことと、あと吹き抜けにつきましては、やはり開放感を持たせるとともに、2階から昇降口の様子を確認できるように設定したものでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あとその図面を見ただけなんですけど、教育相談室といったような部屋がないように思います。通常、16平米ぐらいの広さの部屋が2室ぐらいあるというふうに考えてますので、利用者の動線を考え、ほかの教室や生徒と顔を合わせることなく相談できるスペースが必要だというふうに、私がいろいろ調べた中では入っているんですけど、そういった場所はどこに考えていらっしゃるのでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 今回の設計に当たりましては、やはり建築費を抑えるというふうなことから、既存の教室等で代替可能な機能は、その代替する方向で設計しているところがございます。例えば先ほど申しあげましたように、職員用のトイレにつきましては第2校舎の西トイレを使っていたとこのいうふうなことで対応するということでもありますし、相談室の機能につきましては、例えば体育館1階にありますミーティングルーム等で代替が可能ではないかというふうに考えているところがございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 教師とかのことばかり考えていらっしゃるね、というふうにしか私は印象がとれないです。やっぱり生徒の親御さんと話をするですね、自分たちは今回、新しく建ててもらったところでいますって、生徒の親御さんがいらしたときはこっちの古いところで話をしますじゃなくて、同じように設定して、細かく小さい部屋をつくれればいいじゃ

ないですか、こんだけの広さがある。

それで、先ほどの集会ホールなんてありますけど、ベースとしてもこのだけの広さがあるって、配置したら下がこれだけ余ったようなイメージしかとれない、集会ホール、としか私は見えません。だから、教師だけじゃなくて、保護者の方がこういう管理棟建ててよかったねって思えるようなところがないと、教師だけのためじゃなくて、保護者であったり、子供のためであったりというふうな部分はあると思いますので、そういったものもちゃんと管理棟の中につくっていただかないと、これは非常にレベル差が違い過ぎるんじゃないかと思うんですけど、その辺は何も考えていらっしゃるんですかね。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えします。

この今回の管理棟の建設につきましては、第2校舎と体育館の間につくるというふうなところで、敷地も含めて建設にかなり制約がかかっているところがございます。また、2階のほうの体育館への渡り廊下であったり、第2校舎への渡り廊下であったりというふうなところでも設置をしながら、その中でこのレイアウトしたということなので、レイアウト的にはかなりちょっと無理が入っているような感じでございますので、なかなか思うように配置ができないというのが事実でございますので、その点、そういうふうなことでご理解をいただくしかないのかなと思っております。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 その、もし2階の小会議室や中会議室で災害があって防災シャッターがおりた場合に、男子更衣室のハッチから逃げることになってるんですけど、でもこのハッチから逃げて、下は応接室になってるんですね。これ、応接セットがあって邪魔じゃないですかと思うんですけど、その辺は考えていらっしゃる

るんですか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 ご質疑いただきました想定の場合ですが、防火シャッターにつきましては廊下の北側となることから、階段を利用しての避難となります。また、防火シャッターが降下し、階段が利用できない場合でも避難が可能なように、男子更衣室前に開閉可能な避難用の防火扉、これが設けてありますので、そこから校長室前に避難が可能となります。

なお、委員からご指摘いただきましたハッチにつきましては、避難用のハッチではなくて屋上へ上がるメンテナンス用のハッチでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あとその説明の中で、子供たちのことを考えたというお話だったんですけど、これのどこに子供たちの考えた設計になっているのかというのを教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 基本設計のコンセプトであります。来客対応と指導の安全に配慮して、事務室を1階入り口に配置したというようなことが1つ。あと、登校時や休み時間に児童の様子を見守ることができるように職員室を2階に配置したというようなこと、あと職員室から下校の様子を見守れるように建物の中央部に吹き抜けを設置し、開放的で明るいというふうなところにした。あと、荒天時でも下校指導ができるというふうなところでホールを設置したというようなことで、そうしたところも踏まえながら設計したというようなことでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 特に子供たちのことを考えて設計したようには聞こえなかったんですけど、あとその今回、建設費用としての予算になってます。管理棟の関連費用として5億4,543万9,000円の費用が発生するという事になっ

てます。まず、当初予定した金額に対してどのレベルになっているのか。長井市第五次総合計画の平成29年度から31年度の事業計画を見ると、管理棟建設予算は5億2,974万4,000円になってます。平成30年から32年の事業計画では5億4,543万9,000円です。1,569万5,000円上がってます。これはなぜでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 私どもにつきましては、市長も議会等々で答弁なさっておりますが、6億円以内というふうなことでお話しされておりますので、そうしたところを最大限費用を削減しながら詰めてまいった結果というふうに考えているところでございますし、6億円であれば想定した予算内におさまっているというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 仮設の昇降口費用で、当初の計画から4,151万円下がってるんですね、コスト。でも、事業計画では1,569万5,000円上がってるんですね。トータルでいくと5,600万円ぐらい上がってるんですね、コストが。だからこの4,151万円、5万1,000円って、どこ行っちゃったんですか。その仮設の昇降口を建てることで8,000万円のやつが今回4,000万円近く下がった部分に関して、その4,000万円のコストって一体どこに行っちゃったんですか。それを教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 仮設管理棟の部分で4,000万円ほど今回下がり、当然私たちが一つの目標というのは6億円以内というふうなところで考えていたわけですので、それに目標どおりの想定、目標以内におさめることができたというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 我々その企業側からいうと、4,000万円コストが下がったら、この4,000

万円使えないですよ、もう。要するに6億円あって6億円以内ならいいじゃなくて、5億6,000万円以下とか、コスト下がった分は当然下げていかないと、6億円あるから全部使っていい話ではなくて、そこから当然コストはどんどん下げていかなきゃなんない話が上がりちゃってるんでしょう。それから、4,100万円ぐらいまたこの中でも突っ込んでるんでしょう。だから、この4,100万円ってコスト下がってるんだから、基本的にもっと下がるんじゃないですかという話をしたかったんですが、全然その6億円以下であれば十分、大丈夫ですという話ではないと思うんですが、いかがでしょうか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 今、私たちが予算額として実施設計業務委託料を除いて、委員おっしゃったように、5億4,543万9,000円、総額として持っているわけですので、当然それ以下の金額で入札等々も入りますので、マックスその金額というようなことで考えているところがございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 この追加費用として今後、備品関係の費用が追加される可能性があるのかと。トータル予算金額を6億円とした場合、この備品というのは6億円の中に入らないという考え方なのか、今までのその予算管理をどのようにやっているのか。通常は、私が先ほど言いましたように、総額の予算があり、その中で完了をするようにさまざまな検討を行うと。ただ、建設工事だから中の備品関係ないですよという考え方なのか、それはそれ、これはこれという考え方なのか、その辺どのように考えていらっしゃるのかを教えてください。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えします。

備品につきましては、下足棚や空調設備など、

備えつけのもの以外は全て今あるものを使用するというふうなことで設計に反映しているところがございます。

なお、今後必要と思われる費用につきましては、管理棟完成時に引越し費用等々が発生するというふうなことで、その部分は予定してございます。

また、予算管理につきましては、実施設計業務委託料、あと仮設の昇降口等のリース料、建設費等を含めて総額、予算の総額であります。約5億7,500万円というふうな形になりますが、その中で十分管理していけるというふうなことでありますし、なお、予算措置等につきましては、それぞれ予算の執行時期が年度をまたいで、超えて異なるというふうなことから、このたびも順次提案させていただいているというふうなところがございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 じゃあ、今後その備品関係の追加費用はないという考え方、あと通常その予算というのはトータル予算があって、年をまたごうが、またがなくても、当然総額があって、この費用はこの費用、これは幾ら幾らって、大体出して行って、トータル大体このぐらいかかりますよ、そこからじゃあどうやって下げていきたいと思いますかという考え方だと思んですけど、そういう考え方ではないという考え方なんですか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 例えば役所の予算の部分、節ごとに予算が配置されておりますので、例えば実施設計業務委託料であれば委託料13節になるわけです。また、工事費であれば15節の工事費というようなことで、それぞれに予算を持って、その中で予算を執行しているというようなことでありますので、その点、そういうふうなところで基本的には流用等のないように心がけて、その予算の範囲内で執行するというのが原

則だと考えてございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 一般質問でも話をさせていただいたんですけども、今回その公共施設整備で財政的には厳しくなるだろうというふうに私は考えてますので、そのコスト削減や日常経費削減に関して、どのような考え方で考えていらっしゃるのか。あと、予算があっても節が変わろうが何しようが、それにかかわる費用というのは全部わかるわけですから、要するに事前に予算化しようとしたときに、大体基本設計幾ら、実施設計幾らって、建物に関して大きさがこのぐらいで、その費用は幾らって、大体概略は全部出るはずですから、その中で管理していくつうならまだわかるんですけど、何かそういった管理の仕方をしていらっしゃるようには私はイメージとして受けますので、その辺の考え方については、もう一度そのコスト削減と日常経費削減についてだけはちょっとお答えをいただけますか。

○五十嵐智洋委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 委員のおっしゃられるように、コストの部分につきましてはこれから入札というようなことで入ろうかなとは思いますが、当然予定価格等々、入るわけで、入札に入れば請け差額とかというようなのが出るわけですので、そうしたものは当然使わないで残すというのが行政としては普通前提でありますので、そうした部分も含めて余計なものは設置しないというふうなことでは、一つはあるのかなと。

あと、ランニングコストの部分につきましては、どうしても温度の管理であったりというようなところ、あとまめに電気を消すとかっていうようなところの指導等々がこちらのほうでも十分考えながら、またお子さんのほうに指導していくというようなことになろうかなというふうに考えているところでございます。

○五十嵐智洋委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 今後その公共施設整備で大型事業が始まりますと、関係者においてはその予算執行に際して常にコスト意識を持っていただきたいと。億という単位の金額になると、どうしても感覚的に狂ってくる可能性がありますので、市民からお預かりしているお金を使うという意識を持って、無駄な費用を発生しないように、また完了後のランニングコストを常に考えながら進めていただきたいと思います。

以上で質疑を終わります。ありがとうございました。

鈴木富美子委員の総括質疑

○五十嵐智洋委員長 次に、順位3番、議席番号6番、鈴木富美子委員。

○6番 鈴木富美子委員 長井創生の鈴木富美子です。よろしくお願ひします。通告書に従いまして、順次質疑をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

昨年の6月、フラワー都市交流の総会が長井市で行われました。全国9市町の市民交流団も含め、約300人のお客様がおいでになりました。長井市の各方面からボランティアによるおもてなしをされた市民の皆様、大変ありがとうございました。お疲れさまでした。長井のおもてなしの心がおいでになった皆様に届いたことと思います。

また、企画されました市職員の皆様におかれましても、桜、つつじ、あやめと花観光と同時進行で大変だったことでしょう。お疲れさまでした。私は岐阜県の大野町の担当をさせていただきました。ことは下田市での開催となるため、下田市の皆様は長井のおもてなしの心に感心され、いろいろ参考にされて帰られたと思います。水と緑と花のながいにふさわしい町並み